

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	森 泰宏	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤に診断と患者の治療・看護は成り立っている。この教科では、生態をとりまく環境の変化にすばやく反応する機能として、筋の収縮による運動機能、思考や記憶を司る中枢神経機能(動物性神経)を学習する。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、機能人体における役割を学んでいく。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	人体の骨格と構造、骨の名称を述べるができる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	身体の支持と運動 人体の骨格 骨の形態と構造			
第 2 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	骨の組織と成長のメカニズムを説明することができる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	骨の組織と組成 骨の発生と成長 骨の生理的な機能			
第 3 回	講 義 形 式	授業を 通じての 到達目標	関節の種類とその特徴を説明することができる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	骨の連結 関節 不動性の連結			
第 4 回	講 義 演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	骨格筋の名称と作用を説明することができる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	骨格筋 骨格筋の構造と作用 骨格筋の神経支配			
第 5 回	演 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	体幹を構成する骨格と筋について説明することができる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	体幹の骨格と筋 脊柱、胸郭 背部の筋、胸部の筋、腹部の筋			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	上肢と下肢の骨格と筋について説明することができる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	上肢の骨格と筋 下肢の骨格と筋 頭頸部の骨格と筋			
第7回	授業を通じての到達目標	骨格筋の収縮の種類と特性について説明することができる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	筋の収縮 骨格筋の収縮機構 骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特徴			
第8回	授業を通じての到達目標	神経系の構造と機能について説明することができる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	情報の受容と処理 神経系の構造と機能			
第9回	授業を通じての到達目標	脊髄と脳の構造と機能について説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	脊髄と脳 脊髄の構造と機能 脳の構造と機能			
第10回	授業を通じての到達目標	脳と脊髄神経の構造と機能について説明できる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	脊髄神経と脳神経 脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能			
第11回	授業を通じての到達目標	記憶睡眠と記憶のメカニズムについて説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	脳の高次機能 脳波と睡眠 記憶			
第12回	授業を通じての到達目標	本能行動と情動行動の違いについて説明できる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	本能行動と情動行動 内臓調節機能			
第13回	授業を通じての到達目標	中枢神経系の障害について説明できる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	中枢神経系の障害			
第14回	授業を通じての到達目標	運動機能と運動ニューロンの関係について説明できる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	運動機能と下行伝導路 運動ニューロン 下行(遠心)伝導路			
第15回	授業を通じての到達目標	感覚の種類、性質について説明できる		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	感覚機能と上行伝導路 感覚の種類、性質 体性感覚の受容器の種類 皮膚の感覚受容器の分布			